

1. 科目名 (単位数)	学校臨床心理学特論 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP6265
2. 授業担当教員	石川 清子		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係		履修形態 (通信教育)	SR
7. 講義概要	学校教育を巡る状況はさまざまな問題を含んでいる。子ども達が学び育つ過程で生起する問題は、私たち大人に何を問いかけているのか、そして、臨床心理学が学校という場でどのような役割を果たし得るのか考究する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校環境における子どもの望ましい発達について考察し、学習の場に存在する諸問題について、原因とその対処法を指摘できる。</li> <li>2. 世界経済のグローバル化に伴う新しい教育のあり方を確認し、子どもの健全な心の発達に関し考察できる。学校環境における子どもの人間関係と自尊感情要因について理解できる。</li> <li>3. 子どものウェルビーイングを考え、地域・学校・家庭における理想的な学校臨床の姿を考察し、教育現場で実践できる。</li> </ol>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	シラバス「14.学習の展開及び内容」の各テーマを参照。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>横湯園子『教育臨床心理学』東京大学出版、2002年          沢崎俊之他『学校臨床そして生きる場への援助』日本評論社、2002年</p> <p>【参考文献】</p> <p>川島一夫・勝倉孝治『臨床心理学からみた生徒指導・教育相談』ブレーン出版、2004年          吉田武男・中井考著『カウンセラーは学校を救えるか』昭和堂、2003年          斎藤久子(監)『学習障害』ブレーン出版、2000年          内田照彦・増田公男編著『要説 発達・学習・教育臨床の心理学』北大路書房、2000年          村山正治編集「現代のエスプリ」別冊『臨床心理士によるスクールカウンセラー：実際と展望』至文堂、2000年          山下英三郎著『エコロジカル子ども論 教育から共生へ』学苑社、1999年          北尾倫彦他5名共著『学校教育の心理学 明日から教壇に立つ人のために』北大路書房、1999年          Cross, Jerry &amp; Cross, P.J Knowing Yourself Inside Out. Crystal Publications, 1998          岡堂哲雄編集「現代のエスプリ」別冊『親子の心理とウェルネス：21世紀の幸福な親子関係を目指して』至文堂、1994年          山本和郎『コミュニティ心理学：地域臨床の理論と実践』東京大学出版会、1986年          岡堂哲雄編集『現代のエスプリ：家族療法と親教育』215号、至文堂、1985年          Spiegelberg, Herbert Phenomenology in Psychology and Psychiatry Northwestern University Press, 1972.</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準          上記の目標1～3を達成できること。</p> <p>○評定の方法          報告レジュメ(15課題) 100%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>* 各課題に対し臨床心理士という専門家としての視野を広げるためにも、近年の研究状況を把握していることは必要不可欠です。したがって、文献検索作業を徹底してください。</p> <p>* 批評・討論の力を養うためにも、積極的に文献研究を行ってください。</p> <p>* 各課題で添付する研究論文のコピーは、返却いたしませんのでご承知ください。</p>		
13. オフィスアワー	追って連絡いたします。		
14	学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】		
1. テーマ	教育臨床心理学とは何か		
【学習の目標】	教育臨床心理学とは何か。なぜ学校臨床心理学が学校という環境に必要となったのか、その経路を理解する。		
【学習の内容】	海外のスクールカウンセリングと教育臨床心理学の状況を比較し、日本の学校におけるカウンセリングの現状を把握する。		
【キーワード】	教育臨床心理学・スクールカウンセラー		
【学習の課題】	日本の教育現場の現状を踏まえて、教育臨床心理学の問題点を指摘し、改善すべき点をまとめなさい。		
【参考文献】	<p>横湯園子『教育臨床心理学』東京大学出版、2002年          沢崎俊之他(篇)『学校臨床そして生きる場への援助』23-56 日本評論社、2002年          河合隼雄『臨床教育学入門』岩波書店、1999年          村山正治・山本和郎『スクールカウンセラー』ミネルヴァ書房、1995年</p>		
【学習する上での留意点】	報告レジュメ(2ページ)作成においては、表題をつけて、どの観点から討論をしているのかが分かるように配慮してください。なお、引用文献は、少なくとも3つ、そのうち1つは、研究論文であること。研究論文は、コピーしたものを添付してください。		
2. テーマ	学校臨床心理学の可能性		
【学習の目標】	学校という生活環境を理解し、学校における心理教育的援助サービスの在り方を解明する手がかりを得る。		
【学習の内容】	学校臨床心理学と学校心理学の合流を目指す、心理教育的援助サービスの現状を把握する。		

<p>【キーワード】 学校臨床心理学・学校心理学・学校教育・心理教育的援助サービス</p> <p>【学習の課題】 心理教育的援助サービスの具体例を先行研究より調査し、その結果から考えられる今後の方向性を指摘しなさい。</p> <p>【参考文献】 沢崎俊之他『学校臨床そして生きる場への援助』日本評論社、2002年 馬場謙一『学校臨床心理学』財団法人放送大学教育振興会 22-31、2002年 高澤健司『学校心理学に基づく児童生徒の援助』発達研究会、2002年 石隈利紀『学校心理学に基づく学校カウンセリングとは』「カウンセリング研究」No.29,226-239, 1996年 村山正治編集「現代のエスプリ」別冊『臨床心理士によるスクールカウンセラー：実際と展望』至文堂、2000年 保阪亨『学校を欠席する子どもたち』東京大学出版会、2000年 森田洋司『不登校』現象の社会学、学文社、1991年</p> <p>【学習する上での留意点】 報告レジュメ（小論文）の書き方は上記(課題1)の通りですが、課題2からは各課題に関して教科書を読んだ上で、問題意識をもって各自テーマを設定し文献検索して下さい。最近発表された研究論文をもとに、テーマに関する方法論・結果・考察から比較検討し、レポート内で考察してください。</p>	
<p>3. テーマ</p>	<p>教育現場の現実：攻撃性とその対応</p>
<p>【学習の目標】 学校教育の実状を把握する。その一環として、子どもの攻撃性への対応を理解する。</p> <p>【学習の内容】 学習環境における子どもの望ましい発達について考察し、学習の場における諸問題に関し、その原因と対処法を考察する。</p> <p>【キーワード】 人間理解・攻撃性・危機感</p> <p>【学習の課題】 子どもの攻撃性とその対応に関し、効果的な対応方法について近年の先行研究結果から指摘しなさい。</p> <p>【参考文献】 横湯園子『教育臨床心理学』東京大学出版、2002年 岡本淳子『学校危機に取り組むスクールカウンセラー』亀口憲治(篇)「現代のエスプリ：学校心理臨床と家族支援 407号」40-51 至文堂 2001 今泉博『崩壊クラスの再建』学陽書房、1999</p> <p>【学習する上での留意点】 課題1・2を参照</p>	
<p>4. テーマ</p>	<p>教育現場の現実：いじめ・いじめられ、暴力問題</p>
<p>【学習の目標】 教育現場の現実を直視する。</p> <p>【学習の内容】 学習環境における問題の一つとして、いじめ・いじめられることによる子ども達の暴力問題を考える。</p> <p>【キーワード】 いじめ・いじめられ・暴力問題・ストレス障害・スクールソーシャルワーカー</p> <p>【学習の課題】 学習環境における子ども達の諸問題は彼らの学習意欲を減退させる原因ともなる。従って、学校臨床家にとって、問題対応のあり方は重要な問題である。最近の実証研究を調査し、まとめなさい。</p> <p>【参考文献】 横湯園子『教育臨床心理学』東京大学出版、2002年 門田光司『学校ソーシャルワーク』中央法規、2002年 河合隼雄『いじめと暴力 臨床教育学入門』170-180、岩波書店、1995年 福田博行『いじめ問題に取り組む教師の実践的展開』亀口憲治(篇)「現代のエスプリ：学校心理臨床と家族支援 407号」63-72 至文堂、2001年</p> <p>【学習する上での留意点】 課題1・2を参照</p>	
<p>5. テーマ</p>	<p>教育現場の現実：見え隠れする子どもの虐待</p>
<p>【学習の目標】 教育現場の現実を直視する。</p> <p>【学習の内容】 虐待問題における問題意識のルーツの解明をはかる。</p> <p>【キーワード】 児童虐待・身体的虐待・心理的虐待・性的虐待・ネグレクト・登校拒否・家庭内暴力</p> <p>【学習の課題】 近年増加する虐待について、この問題解決にあたっての日本の現状を調査しなさい。</p> <p>【参考文献】 横湯園子『教育臨床心理学』東京大学出版、2002年 門田光司『学校ソーシャルワーク』中央法規、2002年 三沢直子『児童虐待問題を抱えた学校への心理的支援』亀口憲治(篇)「現代のエスプリ：学校心理臨床と家族支援 407号」82-91 至文堂、2001年 津崎哲郎『指導相談所の今 発達 No.98,Vol.25』pp.28-34、ミネルヴァ書房、2004年</p> <p>【学習する上での留意点】 課題1・2を参照</p>	
<p>6. テーマ</p>	<p>教育現場の現実：教師の苦しみ、癒しを、求める声</p>
<p>【学習の目標】 教育現場の現実を直視する。</p> <p>【学習の内容】 教師の苦しみについて理解を深め、その癒し方、対応について考える。</p> <p>【キーワード】 癒し・ストレス・燃え尽き症候群・ストレスマネジメント</p> <p>【学習の課題】 近年教師の質の低下を指摘する保護者の声を良く耳にする。しかし、日本の社会は着実に複雑化し、学校環境もまた同様に変容してきている。その様な中、学校に対する保護者の期待は多大であり、教師のストレスに関する研究は重要である。問題を設定し、先行研究結果から自己の問題を分析しなさい。</p> <p>【参考文献】 落合美貴子『教師バーンアウト研究の展望』教育心理学研究、No.51(3), pp.351-364、2003年 横湯園子『教育臨床心理学』東京大学出版、2002年 河野友信・田中正敏『ストレスと科学と健康』改訂版、朝倉書店、1998年</p> <p>【学習する上での留意点】 課題1・2を参照</p>	
<p>7. テーマ</p>	<p>まとめ</p>
<p>【学習の目標】 前半の講義内容から、臨床心理学・社会心理学的視野より近年の社会問題に関して学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 各自の問題意識に従って、討論していく。</p> <p>【学習の課題】 近年の学校が直面する問題に関して、先行研究から自己の見解を確認する。</p> <p>【学習する上での留意点】 各自の問題意識に従ってテーマは自由に設定し、文献により分析・考察しておく。</p>	
<p>8. テーマ</p>	<p>学校という場でできること</p>
<p>【学習の目標】</p>	<p>離婚がもたらす家庭の危機について理解する。また、入所施設における学校教育との協働の試みを理解する。</p>

<p>【学習の内容】</p> <p>【キーワード】</p> <p>【学習の課題】</p> <p>【参考文献】</p> <p>【学習する上での留意点】</p>	<p>子どもの危機を乗り越える為に学校臨床心理士としてできる対応・支援について近年の傾向を把握し、問題点を考察しなさい。</p> <p>母子家庭・父子家庭・一人親家族・離婚家庭・情緒障害児・グループレクリエーション・キッズスクールプログラム・危機介入・教育コミュニティ・入所治療施設</p> <p>子どもの心理的危機を乗り越える為に、学校においてどのような対応・支援が行われているか、先行研究をもとに最近の傾向をまとめなさい。</p> <p>沢崎俊之他『学校臨床そして生きる場への援助』日本評論社、2002年 岡堂哲雄編集「現代のエスプリ：家族療法と親教育」215号、至文堂、1985年 堀田香織『学校という場でできること』『学校臨床そして生きる場への援助』沢崎俊之他(篇) 141-158 日本評論社、2002年 内田江里・遊佐安一郎『学校臨床そして生きる場への援助』亀口憲治(編)「現代のエスプリ：学校心理臨床と家族支援 407号」pp.151-160 至文堂、2001年</p> <p>課題1・2を参照</p>
<p>9. テーマ</p>	<p>思春期・青年期へのアプローチ：自己の解体と再編成</p>
<p>【学習の目標】</p> <p>【学習の内容】</p> <p>【キーワード】</p> <p>【学習の課題】</p> <p>【参考文献】</p> <p>【学習する上での留意点】</p>	<p>地域精神保健福祉ネットワークづくりを理解する。</p> <p>地域における障害を持つ子ども達の精神保健の在り方を考える。更に、福祉支援ネットワークづくりを考える。</p> <p>精神保健福祉・ネットワーク・就労支援</p> <p>地域精神保健福祉ネットワークづくり実践状況を把握し、臨床心理士としてコミュニティへのかかわり方をどうすべきか述べなさい。</p> <p>門田光司『学校ソーシャルワーク』中央法規、2002年 沢崎俊之他『学校臨床そして生きる場への援助』日本評論社、2002年</p> <p>課題1・2を参照</p>
<p>10. テーマ</p>	<p>思春期・青年期へのアプローチ：「悪」的なもの、秘密の共有</p>
<p>【学習の目標】</p> <p>【学習の内容】</p> <p>【キーワード】</p> <p>【学習の課題】</p> <p>【参考文献】</p> <p>【学習する上での留意点】</p>	<p>思春期・青年期の主たる概念を理解し、アプローチの在り方を理解する。</p> <p>思春期・青年期の主たる問題を理解し、彼らの自我統合へ向けてのアプローチの在り方を考察する。</p> <p>思春期・青年期・自我統合（自己の解体と再編成）・スチューデントアパシー・自殺・登校拒否</p> <p>思春期・青年期における子供たちの問題において、特に彼らのウエルビーングを目指しどのような対応がなされているか、実証研究の結果をもとに今後の研究のあり方を述べなさい。</p> <p>溝上慎一『焦点モデルの教育・臨床：実践への適用と課題』発達、No.98,Vol.25,pp.83-85,ミネルヴァ書房,2004年 横湯園子『教育臨床心理学』東京大学出版、2002年 平石賢二・杉村和美『中学生の役割緊張に関する研究：コンピテンス及びストレス反応との関連から』青年心理学研究、8号、pp.27-40、1996年</p> <p>課題1・2を参照</p>
<p>11. テーマ</p>	<p>思春期・青年期へのアプローチ：聴きとられること、語るということ</p>
<p>【学習の目標】</p> <p>【学習の内容】</p> <p>【キーワード】</p> <p>【学習の課題】</p> <p>【参考文献】</p> <p>【学習する上での留意点】</p>	<p>教育コミュニティにおける援助活動の在り方を理解する。</p> <p>教育コミュニティにおける援助活動のシステムとスタイルを考察する。</p> <p>教育コミュニティ・学生相談・サポート</p> <p>教育コミュニティにおける援助活動のシステムとスタイルに関する研究を調査し、まとめなさい。</p> <p>川島一夫・勝蔵孝治『臨床心理学から見た生徒指導・教育相談』ブレイン出版、2004年 沢崎俊之他『学校臨床そして生きる場への援助』日本評論社、2002年 斎藤憲司『ひととあうことの専門性』垣内出版、2002年 斎藤憲司『教育コミュニティにおける援助活動のシステムとスタイル：学生相談の現場から』沢崎俊之他(編)「学校臨床そして生きる場への援助」pp.87-112、日本評論社、2002年 内田照彦・増田公男編著『発達・学習・教育臨床の心理学』北大路書房、2000年 藤原勝紀『学生相談の大学における位置と役割：これからの学生相談を求めて』河合隼雄、藤原勝紀(緑)「学校相談と心理臨床：心理臨床の実践」pp.11-12、1998年</p> <p>課題1・2を参照</p>
<p>12. テーマ</p>	<p>スクールカウンセリングを考える</p>
<p>【学習の目標】</p> <p>【学習の内容】</p> <p>【キーワード】</p> <p>【学習の課題】</p> <p>【参考文献】</p> <p>【学習する上での留意点】</p>	<p>21世紀の日本の現状に伴うスクールカウンセリングの在り方を理解する。</p> <p>スクールカウンセリングの役割、援助活動について考察する。</p> <p>スクールカウンセリング・スクールカウンセラー・臨床心理士・コンサルテーション</p> <p>スクールカウンセリングの役割、援助活動に関する研究を調査し、今後の役割の在り方を討論しなさい。</p> <p>川島一夫・勝蔵孝治『臨床心理学から見た生徒指導・教育相談』ブレイン出版、2004年 吉田武男・中井考章著『カウンセラーは学校を救えるか』昭和堂、2003年 横湯園子『教育臨床心理学』東京大学出版、2002年 内田照彦・増田公男編著『発達・学習・教育臨床の心理学』北大路書房、2000年</p> <p>課題1・2を参照</p>
<p>13. テーマ</p>	<p>スクールカウンセリングの実際</p>
<p>【学習の目標】</p> <p>【学習の内容】</p> <p>【キーワード】</p> <p>【学習の課題】</p> <p>【参考文献】</p>	<p>スクールカウンセリングの実際を理解する。</p> <p>スクールカウンセリングの実際として、専門職としての倫理観、予防的対応としての教育等について考える。</p> <p>人間関係・プライバシー・コンサルテーション・スーパーバイザー</p> <p>現状を踏まえて、スクールカウンセリングを実施していく上での問題点を把握し、その改善に関する先行研究及び実践活動の結果から見られる要因を指摘しなさい。</p> <p>川島一夫・勝蔵孝治『臨床心理学から見た生徒指導・教育相談』ブレイン出版、2004年 横湯園子『教育臨床心理学』東京大学出版、2002年</p>

<p>内田照彦・増田公男編著『発達・学習・教育臨床の心理学』北大路書房、2000年          黒澤幸子『スクールカウンセリング 5 本柱』村山正治（編）「臨床心理士によるスクールカウンセラー：実際と展望」『現代のエスプリ別冊』 pp.89-99、至文堂、2000年          伊藤美奈子『学校側から見た学校臨床心理士（スクールカウンセラー）活動の評価：前項アンケート調査の結果報告』臨床心理士報、No.11(2), pp.21-42、2000年</p> <p>【学習する上での留意点】 課題 1・2 を参照</p>	
14. テーマ	<p>生きている場への援助：家族臨床</p>
<p>【学習の目標】 家族援助の重要性を理解する。          【学習の内容】 生きている場への援助として、家族援助の在り方を考察する。          【キーワード】 家族臨床・セラピストチーム・ジョイニング（参入）・システムアプローチ・人権尊重          【学習の課題】 学校臨床心理学においては、子どもと家族・家庭を切り離して対応することはできない。近年の家族臨床に関する研究の傾向を把握し、家族への支援の在り方に関して、先行研究結果をもとに指摘しなさい。          【参考文献】 岡田弘『保護者とのつき合いはなぜ必要か』国分康孝他(監)「保護者との対応」図書文化社、2003年          横湯園子『教育臨床心理学』東京大学出版、2002年          内田江里・遊佐安一郎『学校心理臨床と家族：システムアプローチによる学校と家族の連携』「現代のエスプリ 407号」 pp.151-160、至文堂、2001年</p> <p>【学習する上での留意点】 課題 1・2 を参照</p>	
15. テーマ	<p>教師の実践に学ぶ</p>
<p>【学習の目標】 教師の実践を理解する。          【学習の内容】 本科目のまとめとして、教師と心理臨床家の協働の在り方を考察する。          【キーワード】 ライフコース・協働          【学習の課題】 教師と心理臨床家の協働の在り方について、現状を踏まえて問題点を指摘し、改善すべき点をまとめなさい。          【参考文献】 川島一夫・勝蔵孝治『臨床心理学から見た生徒指導・教育相談』ブレーン出版、2004年          吉田武男・中井考章著『カウンセラーは学校を救えるか』昭和堂、2003年          沢崎俊之他『学校臨床そして生きる場への援助』日本評論社、2002年          内田江里・遊佐安一郎『学校心理臨床と家族：システムアプローチによる学校と家族の連携』亀口憲治(編)「現代のエスプリ 407号」 pp.151-160、至文堂、2001年          村山正治『校内システムの問題』河合隼雄他(監)「心理臨床の実際」第2巻 pp.207-208、1999年</p> <p>【学習する上での留意点】 課題 1・2 を参照</p>	